

1 私立高校の授業料の実質無償化の取り組み

(平成27年10月2日本会議一般質問・平成28年10月11日、決算特別委員会質問)



最近、「子どもの貧困」が大きな社会問題になっています。それは、特に私立高校への進学を経済的理由で諦めざるを得ない世帯の増加につながっています。その対策として、兵庫県でも私学助成制度の充実を図っていますが、大阪府や京都府と比べると相当見劣りしています(下表参照)。

向山好一は、その問題を県議会で2度にわたり取り上げ、県予算の拡充により年収600万円までの世帯で授業料を無料にすべきと訴えました。**それに要する財源は約10億円、兵庫県一般会計約2兆円の0.05%です。**税金の効率的運用と政策優先度の見直しですぐにでも可能な政策なのです。

大阪府	実質年収590万円世帯まで授業料に限らず、施設整備費等まで含んだ無償化
京都府	実質年収500万円世帯まで授業料が無料
兵庫県	250~350万円世帯で6万円、350~590万円世帯で18万円程度の自己負担

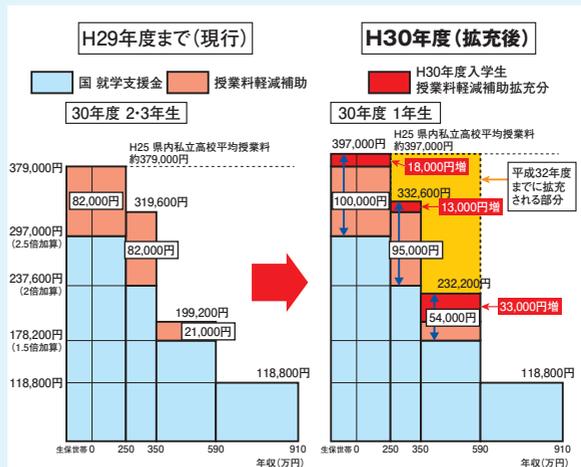
実現

段階的に助成金を上積みし年収590万円までの無償化を実現

平成30年から年収590万円以下世帯での授業料軽減補助を段階的に拡充し、平成32年に授業料が無償化されるよう制度の改善が図られました。

このことにより、590万円世帯では2年後に私学高校の授業料が無料になります。

* 右表は平成30年度の拡充図であり、31年度、32年度と順次拡大を図り2年後に授業料無料化を実現する計画



(平成30年2月23日本会議一般質問)

がんは、国民の2人に1人がかかる時代となっている一方で、治療法は飛躍的に進歩し、以前のような不治の病とは全く異なっています。つまり、全ての人々が予防と治療に正しい知識を持ち、がん向き合う時代になっているのです。



しかし、がん予防の推進役を果たす「がん対策推進条例」は、現在40道府県で制定されているにもかかわらず、いまなお兵庫県には存在していません。向山好一は、**平成30年2月23日の県議会本会議でこの問題を取り上げ、条例制定の必要性を訴えました。**

これから特に必要な対策は、若年層と働き盛り世代を中心とした予防と治療環境の整備です。具体的には、検診率向上とともにDNA診断によるがんにかかりやすい遺伝的身体的特徴の把握、高度医療が将来にもたらすリスクなど適切な医療情報の提供、さらには働きながら治療を受けられる仕組み作り等です。

また、右表のとおり兵庫県のがん検診受診率は軒並み全国平均をかなり下回っています。これを最低でも50%まで引き上げるためにも条例によって数値目標を明確にすべきです。

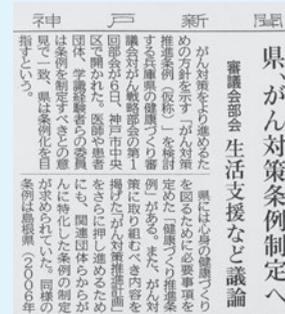
兵庫県のがん検診受診率

疾病名	兵庫県	全国平均
胃がん	35.9%	40.9%
肺がん	40.7%	46.2%
乳がん	39.9%	44.9%
大腸がん	39.1%	41.4%

前進

ようやく条例制定に向けて動き出す

向山好一の質問以降、兵庫県は「健康づくり審議会」で「がん対策推進条例」の制定を前提とした検討が始まりました。兵庫県には全国に誇れるがん治療の医療機関が集積しているだけに、条例を制定することによってそのさらなる活用を促し、検診率の向上を図るなど若年層と働き盛りの世代のがん予防を前進させがん対策先進県にさせていただきます。



平成30年12月7日 神戸新聞朝刊より

兵庫県に集積している公的がん先進医療機関の特徴

- **県立がんセンター**
DNA診断によるオーダーメイド治療を研究
- **粒子線医療センター**
世界初の陽子線と炭素イオン線治療が可能
- **神戸陽子線センター**
小児がんに重点を置いた陽子線治療
- **低侵襲がん治療センター**
患者の負担を最大限軽減した治療を実施
- **国際がん医療研究センター**